

2020 OKAYAMAミニバイクレース特別規則

本レースは、財団法人日本モーターサイクリススポーツ協会（MFJ）承認のもとに、MFJ国内競技規則および本特別規則に基づいて開催される。

1) 開催日・開催クラスの名称および格式

1. 開催日・名称・開催クラス・出場申込期間

		承認競技	
開催クラス		NSF100、GROM SP2st/4st OPEN2st/4st NSF-SP	
ライセンス区分		P(A)・E・J・F・N・I	申込期間
ロードレース第1戦 ◆	3月 8日	90分	2月 2日(日)～ 2月10日(月)
ロードレース第3戦	6月14日	60分	5月10日(日)～ 5月18日(月)
ロードレース第7戦	11月29日	60分	10月25日(日)～11月 3日(火)

◆3月8日開催 OKAYAMAロードレース第1戦にご参加の方は、2019年度のMFJライセンス（ライダー、ピットクルー共に）が必要となります。（2020年度新規にMFJライセンスを取得された方は要注意）

※MFJエンジョイ会員取得は出場大会の1ヶ月前までにMFJに申請を済ませてください。

※MFJエンジョイ会員での出場についてはスポーツ年齢9歳以上より参加可能とする。

2. 格式

MFJ承認ミニバイクレース

2) 競技会の組織

公式プログラムおよび公式通知に示す。

3) 主催者

株式会社岡山国際サーキット

〒701-2612 岡山県美作市滝宮1210

TEL:0868-74-3311 FAX:0868-74-2600

4) 開催場所・コース・周回数（時間）

岡山国際サーキット （フルコース：1周 3, 747m）

〒701-2612 岡山県美作市滝宮1210

TEL:0868-74-3311 FAX:0868-74-2600

- ・60分耐久レース
- ・90分耐久レース

5) タイムスケジュール

タイムスケジュールは、公式通知に示す。

6) 競技の種目

ミニバイクを使用した耐久レース

7) 参加資格

参加するライダーは、以下のいずれかの大会期間中有効なMF J ライセンスを保持していること。

- MF J エンジョイ会員 (E)、MF J ピットクルーライセンス (Aタイプ)、
MF J ロードレース競技ライセンス (J～I)

※運転免許証のみの方はMF J エンジョイ会員証の取得が義務づけられます。

MF J エンジョイ会員証は当日申請が出来ません。出場大会の1ヶ月前までにMF J への申請が必要です。申込はMF J ホームページまたはMF J ネットワークショップにて入手いただけます。

※MF J エンジョイ会員での出場についてはスポーツ年齢9歳以上より参加可能とする。

※MF J エンジョイ会員で出場する場合は、レース毎にサーキット走行講習会を受講すること。ただし岡山国際サーキットライセンス所持者は講習免除となる。

8) 参加クラスおよび車両

参加クラス区分は特別車両規則によって区分されたNSF 100、HRC GROM Cup、オープン4st、オープン2st、SP4st、SP2st、NSF-SPの7クラスとする。また、全クラス混走にて行う。

※次年の各クラス継続可否、混走区分等は本年の参加台数を考慮して決定します。

9) 出場申し込み

1. 出場申し込み先

岡山国際サーキット・レース事務局

〒701-2612 岡山県美作市滝宮1210

TEL: 0868-74-3311 FAX: 0868-74-2600

ホームページ: <http://www.okayama-international-circuit.jp>

2. 出場料 (税込)

60分耐久 (1～2名)	22,000円
90分耐久 (2～3名)	25,300円

※Webエントリーは300円割引

※C (3人目) ライダー登録の場合は上記金額+下記料金が必要

Cライダー登録 (税込)	5,500円
--------------	--------

3. 出場申し込み方法

出場申し込みは申し込み期間内に

①岡山国際サーキットホームページでのWebエントリー

②現金書留による郵送

③岡山国際サーキット事務局窓口

④銀行振込による支払い (申込用紙別途郵送)

【振込先口座】 トマト銀行 吉井支店

株式会社岡山国際サーキット

普通 1088242

上記何れかの方法で行わなければならない。(申し込み期間内の消印のあるものを有効とする)

尚、郵送、窓口、銀行振込で行う場合は下記のものを揃え申し込むこと。

・出場申込書 (大会事務局指定のものに必要事項を記入のこと)

・出場料

・ピットクルー登録料 (MF J ピットクルーライセンス未取得者)

・出場ライダーが満20歳未満の場合は、出場申込書の承諾書に保護者の署名・捺印とその印鑑証明のコピー1通 (3ヶ月以内に取得したもの) を必要とする。

※電話またはFAXによる出場申し込みは一切受け付けない。

※申し込み時に車両をT. B. N. (記載漏れを含む) とした場合で、大会1週間前までに連絡が無

い場合は、T. B. N. 登録料が必要となる。

T. B. N. 登録料 (税込)	5, 500円
-------------------	---------

4. 出場申し込み後のキャンセルに関する規定

出場申し込み後、やむを得ない理由により出場をキャンセルする場合、参加料の取り扱いは以下の通りとする。

- ・エントリー開始～大会14日前・・・事務手数料を差し引き返金
- ・大会13日前～大会当日・・・・・・・・返金なし

事務手数料 (税込)	2, 200円
------------	---------

5. 参加受理と参加不受理

- ・出場申込者には締め切り後に大会事務局から、参加受理または参加不受理が通知される。
- ・Webエントリーで参加受理書の郵送を希望の場合は、郵送料200円が必要。
- ・参加を受理された後に参加を取り消す申込者には、参加料は返還されない。
- ・参加を不受理および参加可否の通知以前に参加を取り消す参加者には、参加料が返還される。ただし、事務手数料が差し引かれる。

事務手数料 (税込)	2, 200円
------------	---------

6. 参加するライダーは車両1台につき、以下の通りとする。

- ・60分耐久・・・・・・・・1～2名
- ・90分耐久・・・・・・・・2～3名

※60分は1名でも参加可能。ただし、最低1回はピットインを行うこと。

その際は、スタンドをかけ、降車、車両の周りを1周し、乗車、ピットアウトすること。

尚、降車する際はエンジンが停止していなくてはならない。

7. 車両1台につき登録できるピットクルーは3名までとし、ライダーがピットクルーを兼ねる事もできる（60分耐久にライダー1名で参加の場合は必ずピットクルー1名の登録が必要です）。登録するピットクルーは16才以上でMFJピットクルーライセンスを所持していること。ただし、MFJピットクルーライセンスを所持していないピットクルーを登録する場合は、ピットクルー登録料が必要となる。

また、申込後にピットクルーの追加登録をする場合は追加登録料が必要となる。

ピットクルー登録料／名 (税込)	1, 100円
ピットクルー追加登録料／名 (税込)	3, 300円

8. やむを得ない事情で上記申込期間内に手続きを行えなかった参加者は、当該レース開催日の7日前までに上記提出物に加え下記の物を提出すること。

- ・参加者の氏名
- ・参加クラス
- ・理由を記した嘆願書
- ・事務手数料

ただし、この場合事前に事務局に連絡しなければならない。

事務手数料 (税込)	3, 300円
------------	---------

10) 出場受付

1. 参加が正式に受理された参加者は、大会前日または当日行われる出場受付を済まさないといけない。
ライダーおよびピットクルーのクレデンシャル、サービスカーの車両通行証はこのとき交付される。
2. 出場受付には以下のものを提示もしくは提出しなければならない。
 - ・正式参加受理書
 - ・MFJライセンス（エンジョイ会員含む）
 - ・車両仕様書
 - ・健康保険証（コピー可）
 - ・レース出場誓約書（Webエントリー者のみ）

※MF J競技ライセンスを提示できない場合、理由の如何を問わず出場できない。但し、MF Jにライセンス照会を行い確認が取れたものに関しては参加を認める場合がある。

その際は、調査手数料が必要となる。

調査手数料／名（税込）	1, 100円
-------------	---------

3. 登録ピットクルーに変更がある場合は、出場受付時にピットクルー変更届を提出すること。

ピットクルー変更料／名（税込）	1, 100円
-----------------	---------

4. 登録ライダー編成の変更

登録ライダーに変更がある場合は、当該クラスの出場受付時までに書面にて下記変更料を添えて大会事務局に変更内容を届け出ること。それ以後の登録ライダーの追加・変更は出来ないものとする。

登録ライダー変更料／名（税込）	5, 500円
-----------------	---------

※参加受理後のライダーの追加は不可

※大会の14日前までに変更を届け出た場合、変更料は必要ない。

「T. B. N. ライダー」登録

※ライダーのT. B. N. 登録が行える。

参加申し込み時に登録ライダーを「T. B. N.」として登録出来るのは、既にAライダーが確定登録している場合のB・Cライダーに限り認められ、MF Jロードレースライセンス所持者もしくはエンジョイ会員でなければならない。また、「T. B. N. ライダー」の登録は大会当日の出場受付時までにT. B. N. 登録料を添えて大会事務局に届けでること。

(大会の14日前までに届け出た場合登録料は必要ない。)

T. B. N. 登録料／名（税込）	5, 500円
--------------------	---------

5. 車両変更

やむを得ない事情による車両変更は、競技監督の承認を得なければならず、参加申込をした同クラスについてのみ許される。

公式予選開始後に変更するフレーム・エンジンは変更前の車両と同型式でなければならない。

エントリー終了時(出場申込書に記入が無い場合も含む)から公式予選開始までの車両変更手数料（税込）	5, 500円
公式予選開始から決勝レーススタートまでの間にフレームボディ・エンジンまたはその両方を交換する場合の車両変更手数料（税込）	1, 1000円

11) 講習会およびライダーズブリーフィング

MF Jロードレース競技ライセンスを所持していないライダーおよび岡山国際サーキットでのレース初参加のライダーは、公式通知に示された時間に必ず講習会を受講すること。また、レースに参加するすべてのライダーは、競技に先立って行われるライダーズブリーフィングに必ず出席すること。講習会およびライダーズブリーフィングに遅刻・欠席したライダーは、再ブリーフィングを受けること。この際再ブリーフィング料が必要となる。

遅刻／名（税込）	2, 750円
欠席／名（税込）	5, 500円

12) 自動計測装置（トランスポンダー）

- 各車両は、公式通知によって示された時間までにトランスポンダーを取り付けなければならない。取り付けを拒否した場合、当該車両およびライダーの出走は認められない。
- トランスポンダーの配布は公式通知によって示された時間・場所にて行い、返却についてはレース終了後速やかに大会事務局にて行うこと。また、リタイアの場合それが確定した時点で速やかに返却すること。なお、レース終了後主催者が指定した場所で回収を行うことがあるので、その場合は指定場所にて速やかに返却のこと。

13) 車両検査

1. 参加車両の車両検査およびライダーの装備検査は、タイムスケジュールに従って岡山国際サーキットBパドック内の車両検査区域にて行われる。
 2. 車両検査にあたってライダー本人が検査を受ける車両と共に、タイムスケジュールに示される指定時間内に下記のものを用意して車両検査区域に集合しなければならない。
 - ヘルメット【MF J 公認品】
 - グローブ
 - ブーツ
 - レーシングスーツ
 - ヘルメットリムーバー
 - 車両仕様書
 - 燃料補給器予選・決勝を通じて使用するものを提示すること。
 - 消火器（内容量2kg以上）レース中給油をしない場合は不要。
- ※チェストプロテクター、背負い式脊椎パッドおよびエアバッグ式プロテクターの使用を強く推奨する。
3. 検査を受ける車両は、あらかじめアンダーカウルを外しておくこと。（外したアンダーカウルも持参すること）また車両ゼッケンは、走行中に脱落しないようにしっかりと貼付すること。
 4. 公式車両検査の結果、参加者が不適当とされた参加者、または車検長による改善命令に応じない参加者は当該競技会から除外される。

14) 使用ガソリン

使用できるガソリンは、岡山国際サーキットBパドック内ガソリンスタンドにて販売されているものであれば、自由とする。

15) 公式予選

公式予選を行い、決勝レーススターティンググリッドを決定する。選出方法は以下の通り。

1. 公式予選は各チームに登録されたライダーによって行われる。
2. 計測は1周目から行い義務周回数は定めないが、少なくとも1周はラップタイムが計測されなければならない。
3. 各レースにおいて、申込台数が多数の場合公式予選を複数組にて行う場合がある。その場合、予選組分けは主催者の抽選にて行われるものとする。また、台数が少数の場合は他のクラスとの混走にて行う場合がある。
4. 予選組分け別に計時予選を行い、ベストタイムを予選タイムとし、タイム順によりスターティンググリッドを決定する。
予選タイムが同タイムの場合は、セカンドタイムを比較し、速い方の車両が上位となる。
5. 予選が複数組に分かれて行われる場合、決勝選抜方法は2020MF J 国内競技規則に準ずる。
6. 複数台予選タイムが記録されない場合は、抽選にてグリッドを決定する。

16) スタート方法

耐久レースのスタート方法は、ルマン式もしくはルマン式スタッガードスタート（複数のグループに分けて行う時間差スタート）とする。

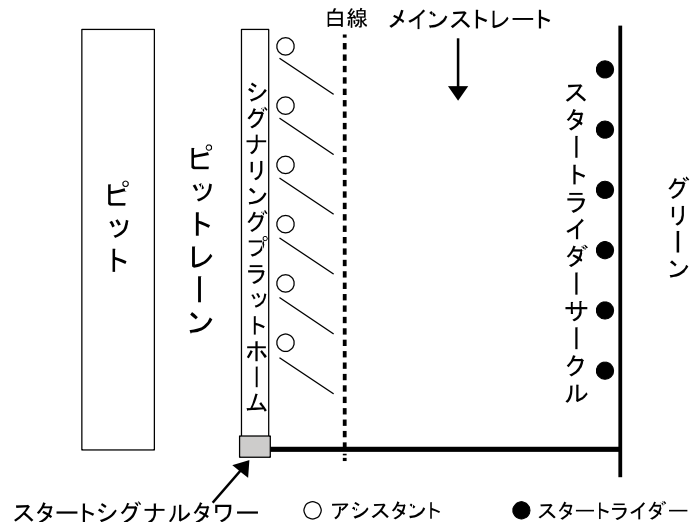
※天候・路面状況により安全の為、ペースカー先導によるスタートとする場合がある。

1. 耐久レーススタート進行手順

時間	表示	備考
スタート 15分前	ピット出口 オープン	[サイティングラップ開始] <ピット出口開放> ウエイティングエリアから17番ピットのコースインゲートを通り、コース1周の下見走行を行い各自のグリッドに付く。10台ごとのグリッドボードとグリッドライン中央にグリッドNo.を記入してあるのでそれを目安に前後輪をグリッドラインに合わせる。
スタート 10分前	ピット出口 クローズ	[ピット出口閉鎖] ピット出口閉鎖後はサイティングラップのコースインは出来ない。コースイン出来なかった車両は手押しでプラットホーム開口部よりグリッドに付ける。 <u>※グリッド上でのタイヤウォーマーの使用が許可される。</u> <u>※タイヤウォーマー用の発電機の持ち込みも許される。</u>
7分前		[エンジンウォームアップ終了] エンジン停止
スタート 5分前	5minボード	[プラットホーム開口部閉鎖] 5分前ボードを提示したオープンカーが自己のグリッドの前を通り過ぎたらスタートライダーは全員メインスタンド側サークルに移動。 <u>※スタンド側コース上に○印あり（5台ごとにナンバーリング）</u>
スタート 3分前	3minボード	[ヘルメットあごひもチェック] [メカニック退場] マシンを支えるアシスタント1名・傘持ちのグリッドガール1名以外はグリッドより退場。すべての調整作業終了（これ以降の作業はピットにて行う） <u>※タイヤウォーマーは速やかに取り外すこと。</u>
スタート 1分前	1minボード	スタートライダーサークルのスタートライダー1名とマシンを支えるアシスタント以外はグリッドより退場
	30secボード	スタート30秒前ボード表示+場内アナウンス
		カウントダウン（3秒前までは場内アナウンスあり）
スタート	シグナル 赤→消灯	決勝レーススタート シグナルタワーの赤ランプが点灯しその後に赤ランプが消灯したらスタートライダーがスタートライダーサークルから離れマシンに駆け寄りエンジン始動しスタート。 ①エンジン始動装置付き車両が先にスタート。 車両を支えるアシスタントはスタート時に車両を押し出さないこと。 アシスタントがコース脇の白線を越えた場合ジャンプスタートとなる。 ②その後、エンジンスタート出来ないマシン（押し掛けの必要なマシン）はメインフラッグマーシャルが <u>グリーンフラッグを振った後に押し掛けによるスタートが許される。</u> ③ピットスタート（スタート出口シグナルによる）は、グリッドからスタートした車両の集団が通過した後、ピットレーン出口のグリーンランプが点灯したらスタートとなる。 <u>※スタート手順違反した場合は「ライドスルー」ペナルティが課せられる。</u> <u>※スタート後全車がピットレーン前を通過した後にサインマンはプラットホームへ入場可能。</u>

2. スタートライダーは原則Aライダーとする。

3. スタート手順に違反した場合は「ライドスルー」ペナルティが課せられる。



※マシンを支えるアシスタントは自チームのB・Cライダーもしくは登録されたピットクルーとし服装は長袖、長ズボン、シューズ（サンダル不可）とする。

※マシンを支えるアシスタントはスタート時の安全管理上1台に対し1名のみとし、エアバッグ取り付けの為アシスタント1名の追加が認められる。

17) 「ピットストップ」、「ライドスルー」ペナルティ

- ①「ピットストップ」のペナルティが課せられた場合は、当該ライダーに対してメインフラッグポスト（同時に他のポストから表示される場合もある）から「ゼッケンNo.を記した【STOP】ボード」が表示される（黒旗は提示しない）。当該ライダーは速やかにピットインして（ピットレーン速度60km/h 厳守）、ピットレーン出口右側にあるペナルティエリアにマシンを停止させること。
- ②「ライドスルー」のペナルティが課せられた場合は、当該ライダーに対してメインフラッグポスト（同時に他のポストから表示される場合もある）から「ゼッケンNo.を記した【RIDE THROUGH】ボード」が表示される。当該ライダーは速やかにピットインしてピットレーンを通過すること。

18) 決勝レース

1. チェッカーフラッグは、スタートからレース規定時間が経過した時点で本コースの最多周回を記録し、フィニッシュラインを最初に通過した車両に対して表示される。
2. チェッカーフラッグは、先頭車両がフィニッシュラインを通過後4分間表示される。
3. 出走台数は各大会の公式プログラムもしくは公式通知に示す。

19) レース (競技) の中断

やむを得ない事情によりレースの続行が危険と判断された場合、競技監督は赤旗を掲示してただちにレースを中断するか、黄旗＋ＳＣボードを提示して１台のセーフティカーを導入し競技を非競技化することができる。

1. 赤旗の場合（2020MF J国内競技規則に準ずる）
 - ・赤旗がコントロールラインと全てのマーシャルポストで提示される。
 - ・競技が中断された場合、ライダーは最大限の慎重さと注意を持ってピットインしなければならない。
 - ・競技が中断された場合、各車両はピットレーンに停車し、放送もしくはオフィシャルからの伝達による連絡があるまで待機しておかなければならない。
 - ・ミニバイク耐久レースに限り、赤旗中断後再スタート可能な車両は全車両とする。
2. セーフティカーの導入については2020MF J国内競技規則付則4. 23-2-2に基づき運用される。

20) レース（競技）の再開

赤旗を掲示することによって競技が中断した場合、その競技の再開については競技監督、もしくは審査委員会の決定によるものとする。なお、赤旗後の競技の再開・終了についての決定には、いかなる抗議も受け付けられないものとする。

21) フリー走行、決勝レース中の遵守事項

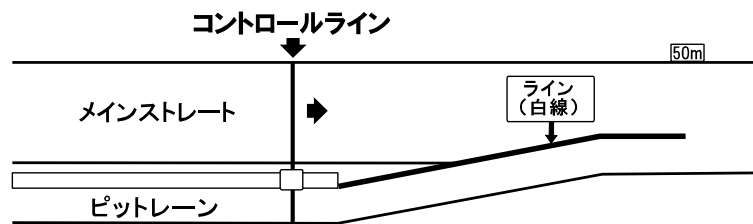
1. コース内で停止する場合には、ライダーは直ちに車両をコース脇に寄せ、他のライダーの走行および安全維持の支障にならないようにしなければならない。
2. コース内で、車両をコース進行方向と逆に押したり、引いたりして車両移動してはならない。ただし、大会役員の指示、競技監督の指示のある場合はこの限りではない。
3. レース中、事故または車両故障などの理由によってリタイアする場合は、その時点から最も近いオフィシャルに報告し、用意してある用紙によってリタイア届を提出しなければならない。
4. ライダーはリタイア届を提出したオフィシャルに車両を預けて安全な場所に退避しなければならない。
5. ライダーはこの車両をそのレースが終了するまでオフィシャルの管理下に置かなければならない。ただし、そのレースに支障のない地点まで車両を移動させることをオフィシャルから指示された場合は、これに従わなければならない。
6. 事故または車両故障でコース途中よりピットまで車両を押して戻す場合は、オフィシャルの指示に従わなければならない。
7. 決勝レース中にコースをショートカットしてパドックに戻る場合は、オフィシャルの許可を得た上で、エンジンを停止した状態で押して戻ること（エンジンが始動している状態での自走不可）。その場合、自チームのピットに戻るまでは運転中のライダーおよびオフィシャル、登録されたピットクルー以外が当該車両に介入することは出来ない。
8. 走行中のライダーは、主催者より配布のライダー識別腕章を右腕部に必ず着用すること。
[赤]・・Aライダー
[黄]・・Bライダー
[緑]・・Cライダー
9. 車両を整備もしくは修理する必要がある場合、原則としてピット前作業エリアにて行うこと。ただし、緊急時またはやむを得ない理由でライダー自身がピット以外の場所で作業を行う場合は、他の車両の走行に支障にならない走路外の安全な場所で行うこと。
10. ライダー交代・燃料補給を行う場合は、エンジンを停止しなければならない。
11. 2コーナシケインへの進入をミスし、エスケープロードに進入した場合は「一旦停止」の後、安全を確認した上でコースに戻ることが許される。

22) ピットインおよびピットアウト

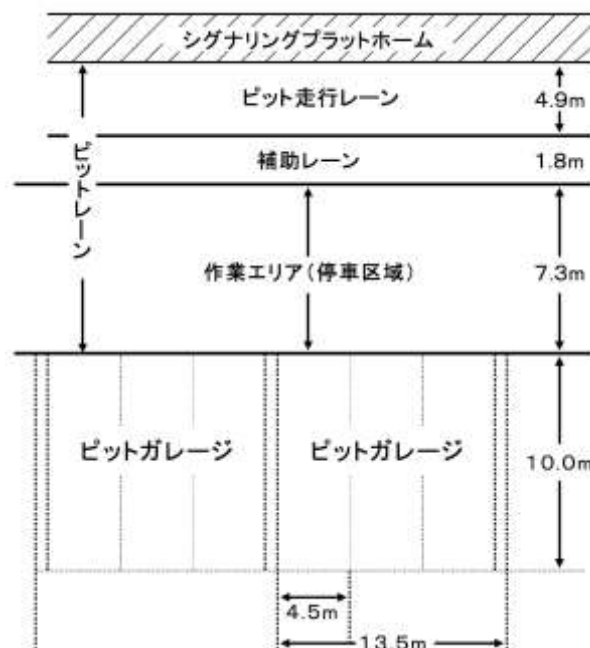
1. ピットレーン（走行レーン）においては先にピットレーンを走行している車両に優先権がある。
2. ピットレーンにおける速度制限は安全管理上60km/hまでとする。
これに違反すると罰則が与えられる場合がある。
・予選中・・・・・・・・・・予選タイムの一部抹消
・決勝レース中・・・・・・・・ライドスルー



3. ピット前の直線部分に区画されたプラットフォームと黄線の間は、ピットインおよびピットアウト専用の通路ピットレーン（走行レーン）、黄線と黄線の間は補助レーン、黄線とピットの間はピット作業のための作業エリアとなる。



4. ピットインするライダーは、第10コーナー出口より走行ラインを右端にとり、第11コーナー出口から手足等でピットインの合図を行い、安全を確認してピットイン専用路に入り減速地帯を徐行しなければならない。
5. 補助レーンは、ピットインまたはピットアウトする際に必要最低限の横断のみが許される。補助レーン・作業エリアの走行は禁止される。
6. ピット出口のシグナルランプについて
赤ランプの点灯：コースインしてはならない。
緑ランプの点灯：コースイン可。
青ランプの点滅：本コース上に走行車両あり。ライダーは各自の責任においてコースインする。
7. ピットアウトしてコースに復帰するライダーは、ピットレーンを出て第1コーナーを抜けるまでコース右端（イン側）に沿って走行しなければならない。その間後方から接近する車両の走行を妨げてはならない。
ピットレーンからトラックに合流の際は、ピットレーン出口からトラック上に引かれているライン（白線）を越えて走行しないこと。



8. ピットでの停車・再スタート
ピットからの再スタートはキックスタート・セルスタート・プッシュスタートのいずれでも自由とする。プッシュスタートの援助は2名までとする。外部のバッテリーを使用することは禁止される。

23) ピット作業

1. 決勝レース中、ピット作業を行う場合は、各自のピット前作業エリアで行うこと。ピットガレージの中（シャッターより内側）およびパドック内に車両を入れるとリタイアしたものと判断される。
2. 決勝レースおよび公式予選中の車両の修理・調整・部品交換などは、ピットに準備してある部品と

工具によって行われなければならない。

3. 競技中の車両がピットインしたとき、当該車両のメカニックは自己のピット前の作業エリアに出て作業することができる。ピット作業の場合を除いて作業エリアに出ること、部品や工具を作業エリアに置くことは禁止される。
4. 1回のピット作業を行う場合、同時に作業できるピットクルー人数は下記の通り。その車両に登録された2名のピットクルーとライダーの合計3名までとする。
5. シグナリングプラットホームに出られるピットサインマンの人数は1台のエントリーに付き、2名までとする。(必ず入場可能なクレデンシャルを着用のこと)
6. ピット内および停車区域は清潔を保ち、器材を整頓し人災防止につとめなければならない。ピット内での喫煙など火気の使用は厳禁される。
7. ピット作業では、電動工具等の火花を発生する装置を使用してはならない。また、電気消費量の多い器具を使用する場合は、各自で電源を用意すること。
8. ピット作業を行うメカニックは安全上、肌の露出の少ない衣類（難燃性が望ましい）を着用すること。また、ピットクルーはピットレーン・シグナリングプラットホーム・スターティンググリッド等に入場の際はサンダル・極端な底高シューズなどは避け、動きやすいシューズを着用すること。
9. スポンサー・ゲスト等をピットに招待しているチームは、各チーム責任者においてピットでの安全マナーを徹底指導すること。また、ゲストはピットレーン（作業エリア・走行レーン・プラットホーム）には入場できない。
10. 作業エリアでのタイヤウォーマーの使用は可能とするが、給油中は禁止される。

24) 燃料補給

決勝レース中に燃料補給を行う場合は、原則としてピット前作業エリアでのみ行うことが出来る。その場合に使用する燃料補給装置は、20リットル以下の耐圧金属製携行缶を使用して行うこと。燃料補給するクルーの服装は、肌の露出の少ない難燃性素材の衣類を着用すること。

【燃料補給手順】

- ①エンジン停止
- ②車両にスタンドをかける
- ③ライダー降車
- ④燃料キャップを開ける
- ⑤給油
- ⑥燃料キャップを閉める
- ⑦こぼれたガソリンを拭く
- ⑧ライダー乗車

※キャップを開いてから閉じるまで給油以外の作業は禁止とする

※スタンドはセンター支持タイプのものが望ましい。

※出火した際直ぐ使用できる場所に消火器を用意しておくこと。

25) 競技細則

フリー走行・耐久の決勝レースでは下記各事項に従い競技を行うこと。

1. ライダー1名の最長運転時間は自由とする。ただし決勝レースでは最低1回以上のライダー交代を行うこと。ライダー交代を行った際は必ずピットオフィシャルにライダー交代を申告すること。
 ※60分耐久は1名でも参加可能。ただし、最低1回はピットインを行うこと。
その際は、自己のピットで停止、スタンドをかけ、降車、車両の周りを1周し、乗車、ピットアウトすること。
尚、降車する際はエンジンが停止していなくてはならない。
2. タイヤの使用本数は自由とする。レース中の交換作業については、ピット前作業エリアにて行うこと。
3. ライダー交代は各自のピット前、作業エリアにて行うこと。いかなる場合もピット以外での場所（ピットレーン（走行レーン）上、コース上等）でのライダー交代は出来ない。

26) 賞典

1. 賞典の詳細は公式通知もしくは、公式プログラムに示す。
2. 各大会賞典の対象は、予選出走台数により下記の通り制限する。
また、混走クラスの場合は各クラスの予選出走台数で賞典対象が与えられる。

予選出走台数	賞典の対象
2台～3台	1位
4台～5台	～2位
6台～7台	～3位
8台～9台	～4位
10台～11台	～5位
12台～	～6位

3. トロフィーの制限は下記の通り

予選出走台数	トロフィー授与
2台～3台	1位
4台～5台	1位～2位
6台～19台	1位～3位
20台～	1位～6位

27) NSF100/HRC GROM Cup HRCトロフィーシリーズポイントについて

シリーズポイントは各チームのAライダーにのみポイントが付与される。

28) 主催者の権限および参加者の遵守事項

2020 OKAYAMAロードレースシリーズ規則第30条および第31条に準ずる。

29) 本特別規則の施行

本特別規則は、2020 OKAYAMAミニバイクレース特別規則1)に示される競技会に適用されるものであり、当該競技会の出場申込受付開始と同時に有効となる。

2020 OKAYAMAミニバイクレース特別車両規則

30) 総則（すべての車両に適用される）

1. すべての車両は、OKAYAMAミニバイク基本仕様に適合していなければならない。ただし、《メーカー出荷時の状態》で適合していない場合は除く。
2. 車両規則に記載されていない事柄については変更・改造・追加は出来ない。
3. **OKAYAMAミニバイク基本仕様**
 - フレーム、フロントフォーク、ハンドルバー、スイングアーム、スイングアームスピンドル、ホイールスピンドルの構造にチタニウム合金の使用は禁止。ホイールスピンドルについては、軽合金の使用も禁止される。
 - リアスプロケットガードの取り付けを強く推奨する。
 - ドライブ（フロント）スプロケットカバーの取り外しは不可。
 - バックミラー・スタンド・キャリア類は取り外すこと。
 - ヘッドライト・ウインカー・テールレンズ等の保安部品は、取り外すか全面にテーピングを施すこと。
 - すべてのオイルドレーンボルト・オイルキャップ・オイルフィルター等は確実に閉め、有効なワイヤーロックなどで固定すること。
 - ラジエーター冷却水は、水または水とエチルアルコールの混合物で無色透明なものに限る。
 - ラジエーター装着車両でブリーザーホースのある車両は、100cc以上のキャッチタンクを取り付けること。
 - キャブレターからのブリーザーホースに100cc以上のキャッチタンクを取り付けること。燃料タンクにブリーザーホースを取り付ける場合、100cc以上のキャッチタンクを取り付けること。また、燃料キャップにワンウェイバルブ機構が装備されていない場合は、ワンウェイバルブを取り付けること。
 - 4ストローク車両でメーカー市販時のエアクリーナーボックスに加工を行った場合、またはエアクリーナーボックスの変更、取り外しを行った場合は250cc以上のオイルキャッチタンクを装着すること。尚、キャッチタンクのブリーザーホースは大気解放せず吸気側に戻すこと。また、エアボックス上部にある無加工で取り外せる吸入ダクトの取り外しは許可される。
 - オイルキャッチタンク・燃料キャッチタンクは走行前に空にしておくこと。
 - 一辺が20cm以上のゼッケンプレートを取り付け、高さ120mm以上、幅80mm以上のゴシック体のゼッケンを貼ること。ただし、車体構造上ゼッケンプレートの大きさが維持できない場合は、限りなくそれに近づけること。
 - 前後アクスルシャフト部は確実に閉め、ロックナット・Rピンなどで緩み止めを行うこと。
 - すべての車両は、メーカー市販時の原動機型式とフレーム型式が一致していなければならない。ただし、年式により異なる原動機番号を持つ原動機および原動機部品は、同車種フレームに限り使用を認める。
 - すべてのハンドルバー・レバー類・ステップ類は、その先端を丸めておくこと。また、カウル・シールドについても同様に鋭利な部分がないように処置を施すこと。
 - ブレーキは、前後輪にそれぞれ安全で独立した有効なブレーキを備えなければならない。
 - ハンドルは、左右ともいっばいに切ったとき指などを挟まないように車体等とのクリアランスを確保できるように調整すること。
 - ステアリングダンパーを取り付けた場合、いかなる場合もステアリングストッパーとしての併用は出来ない。
 - スロットルグリップは手を離した時に自動的に閉じること。
 - スイングアーム上部に取り付けられているチェーンカバーの取り外しは可能。ただし、フロント

スプロケットカバーは取り付けられていなければならない。

- キックペダルは取り外しても良いが、クランクケース内部のスターターギヤを取り外した場合、オイル漏れや、ギアトラブルの無いよう完全に蓋をすること。
- 市販状態でキックスターターの装着がされていない車両は、特殊な加工を必要としないものだけに限り装着を認める。
- 主催者指定のラップタイム計測装置と併用して、他のラップタイム計測器の装着は許可されるが、主催者指定のトランスポンダーに影響（疑似信号、ノイズなど）を及ぼすものは取り外さなくてはならない。また、大会主催者の指定した計測器以外は、全て非公式の記録となるのでこれに基づく抗議は一切受け付けない。
- 通常メンテナンスで行われる4ストロークエンジンのバルブシートカット、バルブのすり合わせは許可される。
- 使用タイヤはミニバイクレース用競技専用タイヤもしくは一般公道用市販の速度レンジM（130km/h）以上で、摩耗限度を超えていないものに限る。ハイスピードサーキット用レーシングレインの使用も許可される。（スリックタイヤは使用不可。）また、使用するタイヤに対してグルーピング（溝切り、カッティング等）は許されない。

4. 車検長が安全でないと判断した場合は、その指示に従うこと。車検不合格と車検長が判断した場合は出走することが出来ない。

31) SP（2st・4st）クラス

1. 使用車両

使用できる車両は、2ストローク50cc以下／4ストローク125cc以下のいずれかで、市販レーサーを除く一般市販モデルでミッション付きの車両であれば自由とする。

※NSF100は市販レーサーのため、市販状態のままであっても出場できない。

2. 各クラス改造範囲については別表－1の通り。

- 使用するタイヤに対してグルーピング（溝切り、カッティング等）は許されない。
- NSR50のシリンダー、シリンダーヘッド、ガasketの組み合わせは以下の組み合わせに限られる。

	組み合わせ1	組み合わせ2
シリンダー	GT4-000 GT4-710	GT4-000 GT4-710 GT4-970
シリンダーヘッド	GT4-000	GT4-010 GT4-970
ヘッドガスケット	GE2-000 GE2-003 GE2-013	GAA-003

【別表－１】

ミニバイクレース（SP2st、SP4st、NSF-SP）改造可能範囲一覧表

※下記表中に記載ないものは改造、変更、取り外し不可

表中記号説明：○＝可能、×＝不可、△＝可能ではあるが条件付き

	項目	SP2st/4st/NSF-SP	備考
エンジン	排気量の変更	×	
	純正オーバーサイズピストンの使用	KSRIに限り可能	
	キャブレターのジェット類・ニードル類変更	○	NSF-SPクラスはキャブレター本体の変更が可能
	キャブヒーティングホースの取り外し	○	
	エアクリーナーボックス取り外し・改造・変更	△	変更・改造の場合は要キャッチタンク
	エアファンネルの取り付け	○	無加工で取り付けられる場合に限る
	分離給油オイルポンプおよびその関連部品の取り外し・改造・変更	○	
	インテーク側インシュレーターの仕切板取り外し、加工	○	
	リードバルブの変更	○	
	吸排気バルブ・バルブスプリング・カムシャフトの変更	×	
	ポート研磨	×	
	ヘッド・シリンダーガスケットの変更、取り外し	×	
	マフラーの改造・変更	○	105dB/Aを超えないこと
	オイルクーラーの追加・改造・変更	○	追加に伴う最低限の加工が許される
	ラジエーター本体の改造・変更	○	
電装	クラッチプレート・クラッチセンター（クラッチボス）の改造・変更	△	当該車両のメーカー出荷時の枚数を下回らなければ可
	手動クラッチへの改造・変更	○	遠心クラッチの車両に限る
	リミッターのカット	○	
	CDIユニットの改造・変更	○	
	充電コイルの取り外しおよび取り外しに伴う加工	○	
	ワイヤーハーネスの改造・変更	○	メインキー取り外し＝キルスイッチを取り付けること。
	バッテリー取り外し、変更	○	
	メーターの取り外し・改造・変更	○	
車体	スパークプラグ・プラグキャップ、プラグコードの変更	○	
	イグニッションコイルの変更	×	
	ゼッケン	黄ベースに黒文字	NSF-SPクラスは赤ベースに白文字
	カウルの変更	○	
	フロント・リアフェンダーの改造、変更	○	フルカウル車両はフロントフェンダー取り外し可
	アンダーカウルの取り外し	○	
	ビキニカウルの取り外し	○	
	アッパーカウル、スクリーンの追加	○	
	シート、シートカウルの変更	○	
	各追加ステーの取り付け	○	
	キャリアバーガード、アクスルガード、フレームスライダーなどのプロテクターの取り付け	○	車検長が危険と判断した場合は取り外しのこと
	ステアリングストッパーの追加	○	
	ステアリンググリップ・レバー・ペダル・ステップ・ステッププレート・リンク類の改造・変更	○	車体への取り付け位置変更は不可
	アクセルスロットルの変更	○	ハイスロットルへの変更可能
	ハンドルバー・トップブリッジの改造・変更	○	
	ブレーキパッド・シューおよびブレーキホースの変更	○	
	ブレーキキャリアパー・マスターシリンダー・ピストン・パッドピンの改造、変更	×	
	フロントサスペンションユニットの変更	○	
	フロントサスペンションバルブの取り付け・スプリングの変更・インシャルアジャスターの取り付け	○	
	サスペンションインナーパーツ（シートパイプ・スプリング）・ダストシールの変更・取り外し	○	
	リアサスペンションの変更	○	
	リアサスペンション車体側取り付け位置の改造・変更	×	
	ボルトオン（一切の加工無く）で装着できる同一メーカー純正ホイールへの変更	○	同じホイール径であること。
タイヤ	スプロケット・チェーン・チェーンサイズの変更	○	
	スピードメーターケーブル駆動ギヤ・ダストシールの取り外し・ホイールカラーの変更	○	
	DL: KR337	○	
	DL: TT72、TT91、TT92	×	
	BS: レーシングミニ	○	
	BS: BT601SS、BT39SSmini	×	
	その他	速度レンジM（130km/h）以上	レーシングスリックは使用不可
	項目	SP2st/4st/NSF-SP	備考

32) NSF100クラス

NSF100 HRCトロフィー レギュレーションに準ずる。

<https://www.honda.co.jp/HRC/event/nsf100hrc trophy/regulation/>

なお指定タイヤは下記の通り。

①指定タイヤ (DRY時) ※その他のタイヤは使用不可。

・ダンロップ

KR337 (フロント: 100/485-12 リヤ: 120/500-12)

・ブリヂストン

RACING MINI (フロント: 100/485-12)

RACING MINI (リ ヤ: 120/500-12)

②指定レインタイヤ※その他のレインタイヤは使用不可。

・ダンロップ

KR345 (フロント: 100/485-12 リヤ: 120/500-12)

・ブリヂストン

BATTLAX BT-601 s s W e t NHS (YEK)

SCS02023 (フロント: 100/90-12)

SCS02024 (リ ヤ: 120/80-12)

③ゼッケンは黒ベースに白文字とする。字体は明瞭なものに限り、その判断は車検委員によって行われる。

33) NSF-SPクラス

1. 使用車両

使用できる車両は、HRCより販売されるNSF100市販モデルのみとする。

2. ゼッケンは赤ベースに白文字とする。字体は明瞭なものに限り、その判断は車検委員によって行われる。

3. 使用車両に対する改造・変更の範囲は、本車両規則31) SP2 s t / 4 s t クラス記載のSP4 s t 車両に準ずる。

※尚、SP4 s t クラス規則に加え、キャブレターの変更を可能とする。

34) オープン (2 s t ・ 4 s t) クラス

1. 使用車両

使用できる車両は、2ストロークは65ccまで4ストロークは125ccまでの排気量とする。

2. ゼッケンは赤地に白文字とする。字体は明瞭なものに限り、その判断は車検委員によって行われる。

3. 下記項目以外の改造・変更はすべて許される。

●すべての4ストローク車両は250cc以上のオイルキャッチタンクを取り付けること。

●ミッションギヤは6速以下とする。

●マフラーの形状および材質は自由とするが、問題を指摘された場合はその指示に従うこと。

110dB/Aを超えないこと。

●カウルを取り外した場合、そのステー類も外すこと。

35) HRC GROM Cup

HRC GROM Cup技術規則に準ずる。

<https://www.honda.co.jp/HRC/event/hrcgromcup/regulation/>

35) その他

上記の規則において、解釈に疑義・混乱が生じた場合、車検長の判断を最終のものとする。

以上
大会事務局